

とんぐい村の こみ・すく通信

令和4年1月24日発行 第21号
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その15> 保護者の協力を得て おもちつき会

12月23日、上更別小学校で2年ぶりの親子おもちつき会が実施されました。当日の9時頃から6名の役員のお母さん方がお手伝いに訪れ、もち米をふかしたり、臼にお湯をはって温めたりしてくれました。



もちつきは感染対策のため、つき上がったおもちを丸めて食べずに持ち帰りましたが、子どもたちは楽しそうにもちつきに取り組んでいました。

命の誕生を知り、自分の生き方を考える



赤ちゃんがお腹にいる時の様子です。

12月17日、更別中央中3年生に「心と身体の学習」と題して、助産師の中山由香里さん(元芽室病院勤務)が授業をしてくださいました。

各自の母子手帳を見るところから始まり、命の誕生、成長から性感染症に至るまで命に関わる大事なことを学びました。その中で①「何かあったときには病院や専門機関や学校に相談する」②「自分の命を大事にする、相手や自分の周りの人を大切にすることが強調されていました。」

妊婦って大変。身体が重たい。



妊婦体験ジャケット着用

村議会議員に提案



12月22日、更別中央中3年生が社会科で更別村の議場を訪問し、議会事務局の佐藤さんから村議会の仕組み等を説明いただきました。その後、生徒から村の課題の解決案を議員の方々に提案し、そのことについて各議員から答えていただきました。



【生徒の提案に対して、高木議長が各議員を指名】

議員の方々からは「中央中3年生の皆さんとの対談は充実した時間になった。」「3年生の皆さんが更別村のことに関心をもち、更別村のことをしっかり考えてくれていることに感動した。」という感想などをたくさんお聞きしました。

認知症VR体験 認知症の人の世界

12月20日、更別中央中学校1年生が保健福祉課の主催する認知症VR(バーチャルリアリティ)体験会に参加しました。☆次のような症状をVRで体験し、どう感じ、どうしてほしいかを考えました。

- ①視空間失認体験
 - ・距離感がつかめなくなる
- ②レビー小体病幻視体験
 - ・幻覚を見てしまう
- ③見当識障害体験
 - ・ここがどこか分からなくなる

うわぁ！怖い！足元を見下ろすと高いビルの屋上にいるみたい。なぜ怖がるのか話を聞いて欲しい。



認知症の症状の一つ 視空間失認体験